

各関係機関団体の長 } 殿
各病虫害防除員 }

福岡県病虫害防除所長

平成24年度病虫害発生予報第2号（5月）について

このことについて、病虫害発生予報第2号を発表したので送付します。

予報第2号

なし赤星病の防除を徹底しましょう。

ビヤクシン上の赤星病冬孢子堆の成熟状況は前年並で、冬孢子堆からの小生子の飛散（ナシへの感染）は前年と同時期の5月始め頃まで続くと考えられます。
冬孢子堆の成熟状況の確認と、週間天気予報による降雨日の把握によって、適期防除に努めて下さい。



ビヤクシン葉上の冬孢子堆



なし葉上の病斑

<予想される向こう1か月の天候（平成24年4月21日～5月20日）>

天気は数日の周期で変わるでしょう。期間のはじめは平年に比べ晴れの日が少なく、その後は、平年と同様に晴れの日が多い見込みです。

向こう1か月の平均気温は、平年並か高いでしょう。降水量は、多いでしょう。日照時間は、平年並か少ないでしょう。

週別の気温は、1週目は高く、2週目は平年並か高いでしょう。

向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（%）

要素	低い（少ない）	平年並	高い（多い）
気温	20	40	40
降水量	20	30	50
日照時間	40	40	20

（福岡管区気象台 平成24年4月20日発表抜粋）

5月における主な病害虫の発生動向は、次のように予想されます。

主な病害虫の発生予報概要

作物名	病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)	
		平年比	平年比	前年比
かんきつ	そうか病	少	並	並
なし	黒星病	少	並	並
かき	フジコナカイガラムシ	やや少	やや少	やや少
果樹共通	カメムシ類	—	—	多
茶	カンザワハダニ	少	やや少	やや少
	チャノミドリヒメヨコバイ	並	並	並
	チャノキイロアザミウマ	並	並	並

作物別発生予報

注①：この予報は病害虫防除所の現地調査結果に基づき、情報作成会議を経て作成しています。
 注②：予報の根拠の末尾の()書きは、(+)は発生を助長する要因、(-)は発生を抑制する要因、(±)は発生の助長及び抑制に影響の少ない要因であることを示します。

【果樹：かんきつ】

1 そうか病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病葉率 0% (平年 0.2%、前年 0.2%)

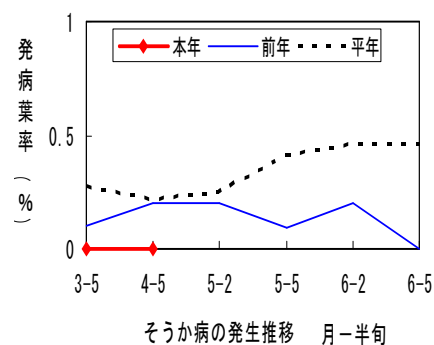
発生ほ場率 0% (平年 16.3%、前年 30.0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は多いとされている(+).

(3) 防除上の注意

ア 落花直後に灰色かび病、黒点病との同時防除を実施する。

イ 罹病葉は見つけ次第除去する。



【果樹：なし】

1 黒星病

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年並

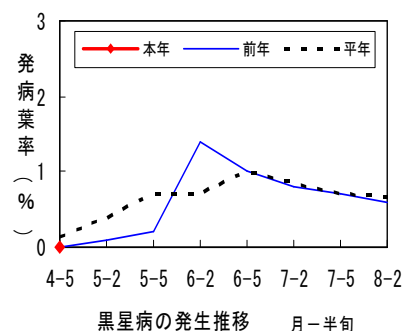
(2) 予報の根拠

ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(-)。

発病葉率 0% (平年 0.1%、前年 0%)

発生ほ場率 0% (平年 10.6%、前年 0%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は多いとされている(+).



(3) 防除上の注意

- ア 罹病葉や罹病果実は、見つけ次第除去する。
- イ 薬剤感受性の低下を避けるため、同一系統薬剤の連用は避ける。

【果樹：かき】

1 フジコナカイガラムシ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少

(2) 予報の根拠

ア 4月5半月調査の結果、発生量は平年よりやや少なかった（-）。

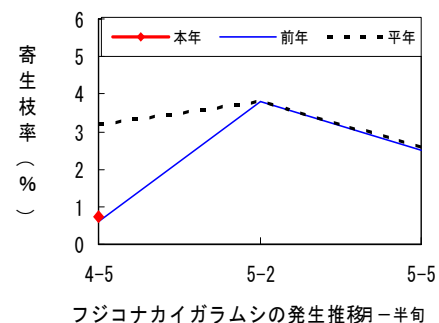
寄生枝率 0.7%（平年 3.2%、前年 0.6%）

発生ほ場率 33.3%（平年 54.8%、前年 25.0%）

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

- ア 多発園では、天敵の影響が比較的少ない薬剤で防除する。
- イ 開花前の防除は、ミツバチに影響の少ない薬剤を散布する。



【果樹：カメムシ類】

(1) 予報の内容

発生量：前年より多

(2) 予報の根拠

ア チャバネアオカメムシの1㎡当たりの越冬量は、平均 3.6 頭（前年 0.7 頭、）で、前年より多かった（+）。

イ 向こう1か月の気象予報は、気温は平年並か高く、降水量は多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

- ア カメムシ類は夜温が高くなると活動が活発になるので、気温の推移や地域の予察灯の誘殺状況を確認し、園への飛来状況に注意する。
- イ ウメ、モモ、スモモ、ナシ、カンキツ等では、園内の発生状況の把握に努め、発生に応じて防除を行う。

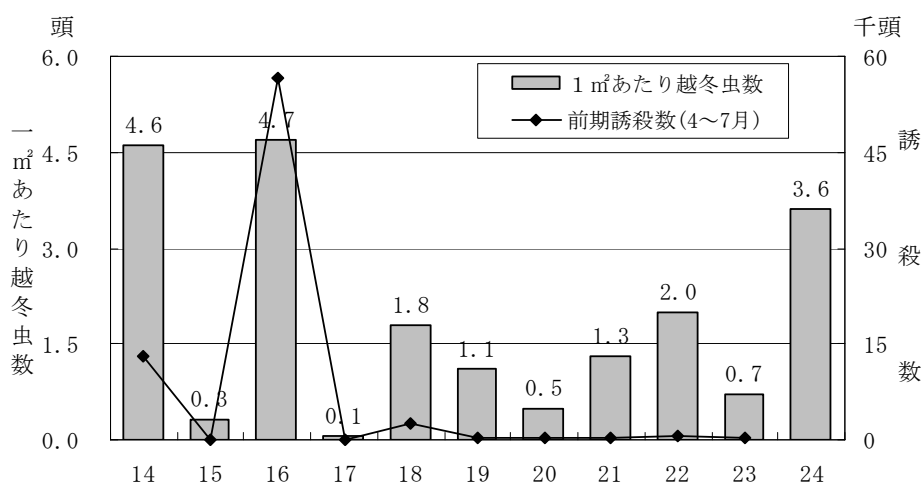


図1 チャバネアオカメムシの1㎡あたり越冬虫数及び県下6か所予察灯の前期(4~7月)平均誘殺数の年次推移

【果樹：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
かんきつ アブラムシ類	やや少	やや少	並	・ミカンハモグリガやハマキムシ類との同時防除を行う。
ミカンハダニ	やや少	やや少	やや多	・発生初期に防除する。
なし 赤星病	やや少	並	並	・5月上旬頃まで感染が予想されるので、適期防除に努める
アブラムシ類	やや少	やや少	並	・発生初期に防除する。
かき 炭そ病	—	やや多	やや多	・罹病枝は伝染源となるので、見つけ次第除去する。 ・多発園では、防除効果の高い薬剤を必ず散布する。
ぶどう 黒とう病	やや少	並	やや少	・罹病葉や罹病新梢は伝染源となるので、見つけ次第除去、焼却する。 ・多発園では、ジチアノン水和剤や有機銅水和剤を必ず散布する。

【野菜：その他の病害虫】

作物名 病害虫名	発生量 (現況)	発生量 (5月の発生予報想)		防除上注意すべき事項等
	平年比	平年比	前年比	
アスパラガス 斑点性病害	並	やや多	やや多	・予防散布を行う。 ・ハウスのつま面を開放し、湿度の低下を図る。
アザミウマ類	やや多	やや多	多	・ハウス周辺の除草を徹底する。 ・葉や若茎の穂先に発生するので、早期発見に努め、発生初期から防除する。

【茶】

1 カンザワハダニ

(1) 予報の内容

発生量：平年・前年よりやや少ない。

(2) 予報の根拠

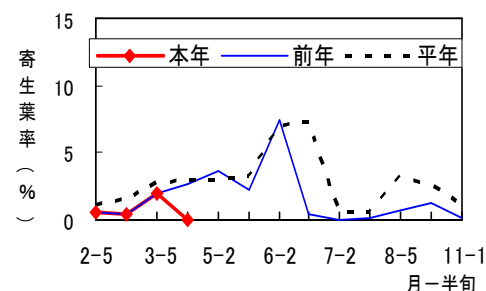
ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年より少なかった(—)。

寄生葉率 0%(平年3.0%、前年2.7%)

50葉当たり虫数 0頭(平年8.4頭、前年5.9頭)

発生ほ場率 0%(平年47.6%、前年64.7%)

イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、



カンザワハダニの発生推移

降水量は多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

- ア 新葉への寄生は確認されなかったが、表層の硬化葉に寄生が確認された茶園も見られることから、発生状況をよく観察し、寄生葉率が2%以上の茶園では、摘採後、速やかに防除を行う。
- イ 薬剤感受性低下を避けるため、同一系統薬剤の連続散布を避け、異なる系統の薬剤をローテーション散布する。

2 チャノミドリヒメヨコバイ

(1) 予報の内容

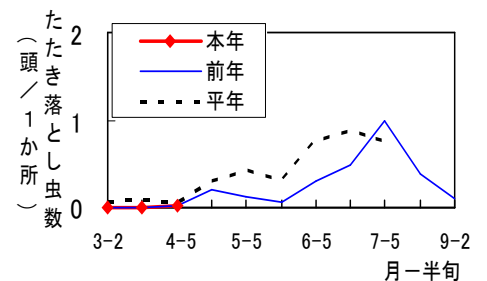
発生量：平年・前年並。

(2) 予報の根拠

- ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。
たたき落とし虫数 0.02頭(平年0.06頭、前年0.03頭)
発生ほ場率 6.3%(平年15.1%、前年11.8%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

一番茶摘採後または二番茶の萌芽から、開葉期を重点に防除する。



チャノミドリヒメヨコバイの発生推移

3 チャノキイロアザミウマ

(1) 予報の内容

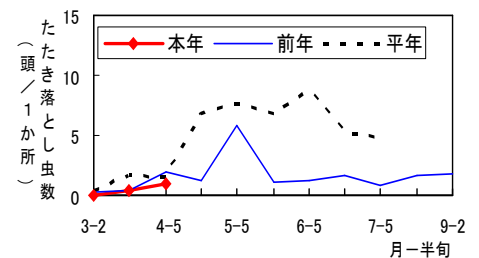
発生量：平年・前年並。

(2) 予報の根拠

- ア 4月5半旬調査の結果、発生量は平年並であった（±）。
たたき落とし虫数 0.95頭(平年1.5頭、前年2頭)
発生ほ場率 56.3%(平年64.1%、前年64.7%)
- イ 向こう1か月の気象予報では、気温は平年並か高く、降水量は平年より多いとされている（±）。

(3) 防除上の注意

一番茶摘採後、または二番茶の萌芽から開葉期を重点に防除する。



チャノキイロアザミウマの発生推移

農薬の安全・適正使用、飛散防止対策の徹底を！

福岡県では、農薬の安全かつ適正な使用及び保管管理、使用現場における周辺への配慮を周知徹底するとともに、農薬による事故防止を目的として、安全使用講習会の開催や啓発チラシの配布等を関係機関、団体と一体となって取り組んでいます。

使用者の安全はもちろん、人畜・隣接作物・河川等への配慮について、ご指導をお願いします。

1 農薬適正使用の徹底

○適用作物、使用量や濃度、使用時期、総使用回数などが記載されたラベルをよく確認し、使用基準を遵守する。

※農薬の種類によっては、登録の内容がメーカーによって異なるので、ラベルをよく確認する。

(例：スミチオン水和剤40は、メーカーによって適用作物名や適用病害虫名が異なる)

2 飛散防止対策の徹底

○風の弱い時に散布する。

○風向、散布方向、散布時間、散布圧などに留意する。

○飛散しにくい農薬（剤型）や飛散が少ないドリフトレスノズルを使用する。

○散布ほ場周辺の収穫前の作物には十分注意する。

3 保護具の着用

○農薬の散布時には、ラベルの注意・警告マークをよく確認し、マスク、保護メガネ、ゴム手袋等を着用する。

4 農薬の散布後は、必ず散布器具を洗浄

○噴霧器、薬液タンク、ホースなどの散布器具を十分に洗浄する。

5 防除履歴の記帳

○農薬の散布が終わったら、作物名、ほ場の場所、使用年月日、薬剤名、使用濃度、使用量等を正確に記帳する。

6 空容器の処分

○空容器は、産業廃棄物処理業者に委託するなど、適切な処分を行う。

また、野焼きは法令で禁止されているので行わない。

病虫害防除所では、病虫害の発生状況と防除についてホームページでお知らせしています。

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>
電子メール kfok0301@sp.jppn.ne.jp

